

付着生物ラーバ情報

ミネフジツボのラーバは 出現のピークを向かえました

1 ラーバの出現状況

直近のラーバ等の調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ

ラーバは見られていません (表1、図2)。

(2) キヌマトイガイ

ラーバは久栗坂沖で4.4個体/m³、野辺地沖で40.6個体/m³、川内沖で1386.7個体/m³見られました (表1、図3)。

(3) ミネフジツボ

ラーバは久栗坂沖で1.1個体/m³、野辺地沖で4.7個体/m³、川内沖で32.8個体/m³見られました (表1、図4)。

(4) その他

アミクサの小枝は野辺地沖で17.2個/m³見られましたが、オベリア類のクラゲは見られていません (表1)。

※今後の見込みは裏面にあります

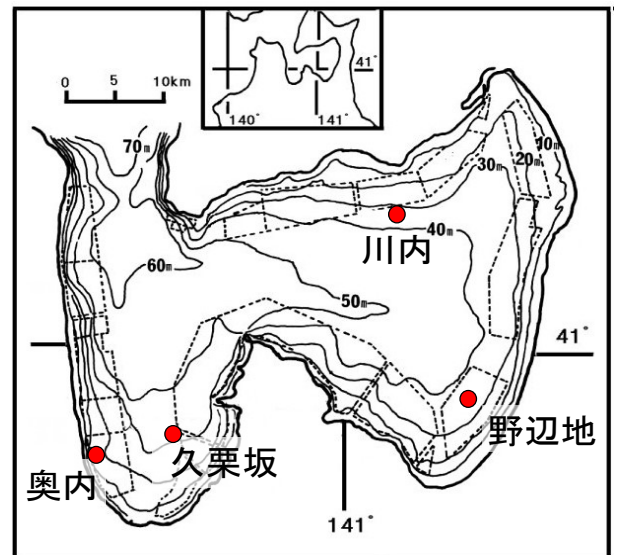


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

単位: 個体/m³

| 調査地点 | 調査月日 | ユウレイボヤ | ガラボヤ | キヌマトイガイ | ムラサキイガイ | ミネフジツボ | オベリア類 クラゲ | アミクサ 小枝 |
|------|---------|--------|------|---------|---------|--------|--------------|------------|
| 久栗坂沖 | R4.2.10 | 0.0 | 0.0 | 4.4 | 32.8 | 1.1 | 0.0 | 0.0 |
| 野辺地沖 | R4.2.1 | 0.0 | 0.0 | 40.6 | 100.8 | 4.7 | 0.0 | 17.2 |
| 川内沖 | R4.2.10 | 0.0 | 0.0 | 1386.7 | 220.3 | 32.8 | 0.0 | 0.0 |

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

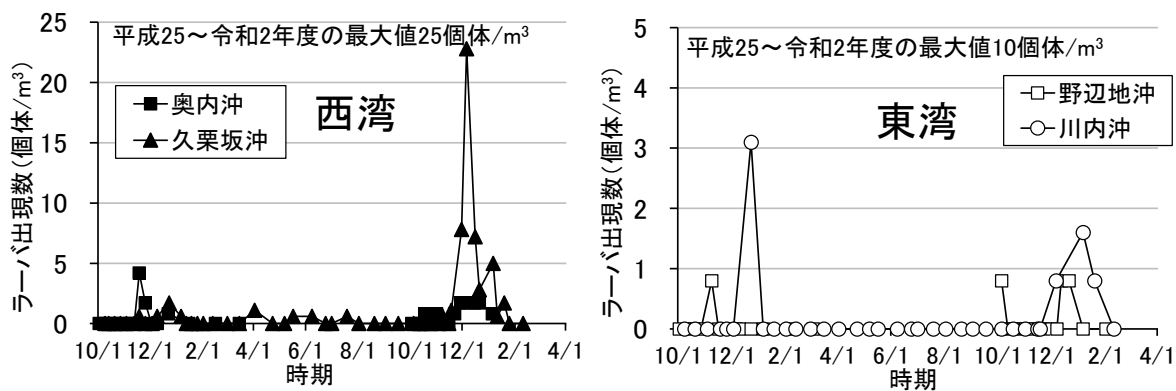


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移（令和2年10月～令和4年2月）

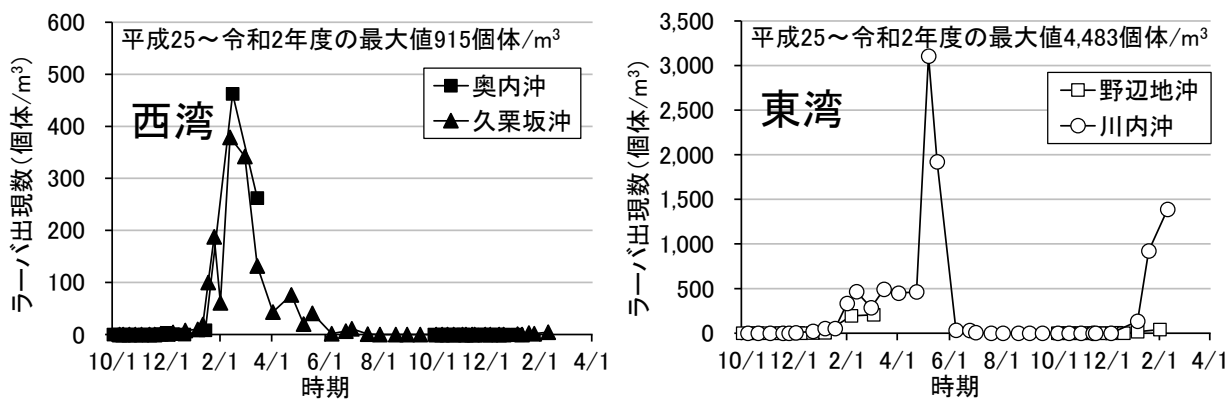


図3 キヌマトイガイラーバ出現数の推移（令和2年10月～令和4年2月）

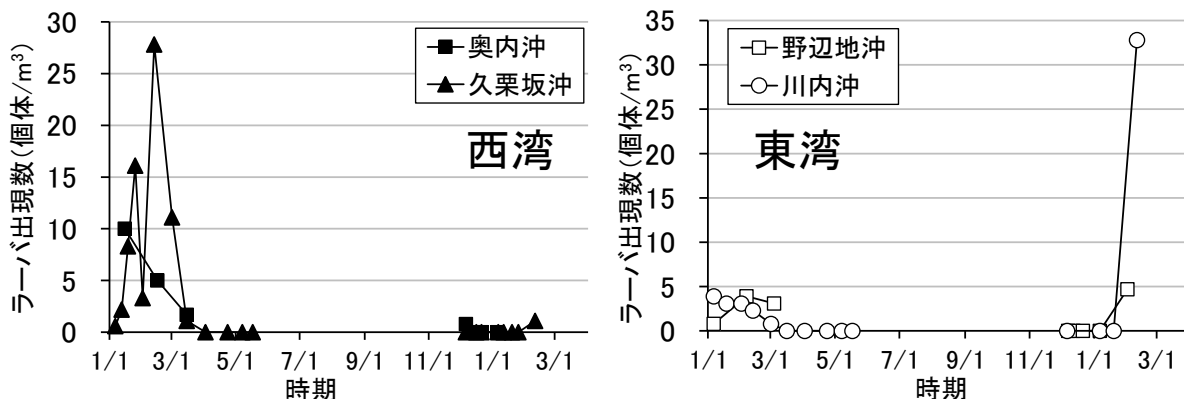


図4 ミネフジツボラーバ出現数の推移（令和3年1月～令和4年2月）

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温は3～8℃台に低下し、ユウレイボヤのラーバ出現ピークは過ぎています。

今季の久栗坂沖の累積ラーバ数は49.6個体/m³と非常に多く、分散済みのパールネットにユウレイボヤの大量付着が見られています。今春の半成員の出荷作業効率は低下するものと思われます。

キヌマトイガイのラーバ出現数が増加していることから、今後、籠や耳吊り、マボヤ採苗器への付着が増加するものと思われます。

ミネフジツボの付着直前のラーバは出現のピークを向かえていることから、今後、付着が進むものと考えられます。

アミクサ小枝の本格的な出現やオベリア類の付着は今月以降になるものと思われます。

